

＜今日の説教のポイント 出エジプト記 20 章 8-11 節＞

#### 第四「安息日を心に留め、これを聖別せよ。～ 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。～」

##### 1 日本の信仰者を悩ませる戒 — 聖書から正しく聞き直してみよう。

これは日本の信仰者が悩む戒めです。十戒は大事、しかし日曜日に仕事が入ることがある。その時はどうしたらいいのかと。今日は、まずこの戒めが何を言っているのか正しく理解することから始めましょう。

##### 2 (8)「心に留め」と「聖別せよ」に注目したときに見えて来ること。

「安息日を心に留め、これを聖別せよ」の「心に留め」と訳された言葉は、元のヘブル語では、その前に交わした契約があつてそれを「忘れることなく、いつも思い出せ」といったニュアンスを持っています(英訳では remember、口語訳では「覚えて」。申命記 5:12 では「守って」)。また、「聖別せよ」は、「神のものとして他と別ちなさい」という意味です。つまり、エジプトから自分たちを救い出して下さった神様のことを思い感謝する日として安息日を他の日と別ちなさいと言われているのですね。

##### 3 (9-11)十戒が記されたもう一つの個所。そこそここの相違点は？

実は、申命記 5 章にも十戒が記されており、その両者を比べると大事なことが見えてきます。第 4 戒については、6 日間働いた者は全て 7 日目の安息日には休めと言われている点は両方とも同じ、しかし、その理由が違います。出エジプト記の方は、神様が世界を 6 日間で造られた後、神様が休まれたからあなたがたも休みなさい(11)ですが、申命記の方は、イスラエル人がエジプトで奴隷として終わりなく労働に就かされていたからあなたがたはそれはしてはならない(申 5:15)です。この両方を踏まえた重要な警告を預言者が語っています(アモス書 8:4-8)。

##### 4 「安息日」は、ただリラックスする日ではない。では、その真意は？

「安息日」と訳された言葉は「休む・終わる」を意味するヘブル語から来ていますが、「止める、ストップする」という意味が強く、ただリラックスするというのとは違います。神様は、第四戒で、「課せられてにせよ、自分から進んでにせよ、神様以上に何かを上置いて活動を続けるなら、自分もこの世界までも壊すことになる、だからそれを止めなさい。あなたとこの世界を造った私を見上げる時を大事に確保しなさい、それが命につながる道だから」と言って下さっているのです。安息日に礼拝する理由です。あとは私たちがそれにどうお応えするかです。